

学習内容報告書

学校名	秋田市立旭北小学校
授業者	佐藤博美、小松愛佳

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

秋田の海たんけんたい

1-2. 学年

第2学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

国語科、図工科、生活科

1-4. 単元の概要

日本海に面した秋田県は、白神山地と鳥海山の栄養豊富な伏流水が日本海に流れ込み、豊かな海の幸に恵まれている。また、砂浜・岩場ともに、海水浴を楽しむことのできる場所が数多くある。海に沈む夕日も絶景である。北部の三種町では、毎年サンドクラフトのイベントが行われ、素晴らしい砂の像が並ぶ。また、男鹿水族館GAOには、秋田県の魚であるハタハタに特化したコーナーがある。

本校の2年生が毎年GAOで行う校外学習を核として、海を大きな学習素材とした単元開発を進めることにした。海辺で遊んだり、人々のハタハタへの思いを感じたりするなど、多くの共通体験を通して、「海とともに生きる」ことについて実感できる学習としたいと考えた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

1年生の国語「うみのかくれんぼ」（光村）は、ハマグリ・タコ・モズクシヨイを取り上げ、生息地の砂浜や岩場などの海の様子に触れる説明文である。子どもたちは、かくれんぼのオニになった気分で、楽しく学習を進めた。しかし、実際に岩場でカニを見つけたり、砂浜でハマグリをとったりした経験のある児童はほとんどいない。2年生の物語文「スイミー」に登場する様々な生き物についても、実感が伴わないと予想された。

その理由の一つとして、子どもたちにとって、海が身近ではないことが挙げられる。秋田市の中心地にある本校は、海水浴ができる海までは遠い。官公庁や多くのビルに囲まれており、近隣に山や川、田んぼなどはなく、学習環境としての自然が残念ながら乏しい。休日に家族と海水浴に行った話をする児童はいるが、決して多くはない。海に囲まれている日本に住みながらも、海への関心が薄いように感じる。また、地震による津波被害を心配して、海から遠ざかっている人も多いように思う。全員で同じ体験を共有することで、私たちの生活と密接な関係にある海についての学びを、広げたり深めたりすることができる考えた。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

低学年は好奇心旺盛で、様々な事象に対して豊かに感受する時期である。この単元を展開することは、2年生の児童が海に親しむ自発的な遊びを体験でき、海のすばらしさを感じ取り、大切にしようとする心を育てていくのに適している。この事業により、児童全員で実際に出掛けて共通の体験をすることが可能になった。また、様々な方法で多くの人に伝えることもできた。さらに、東日本大震災等の災害の教訓として危険回避や復興、人と自然との共存などにつながる素地を養うこともできた。

学年全体でダイナミックな学習を進めることができたことにより、新指導要領で新しい時代を生きる子どもたちに必要とされている「資質・能力」の育成に大きな成果を期待できる。

1-7. 単元の展開（全34時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	「海の生きものたち」受講	秋田市環境学習サポート事業講座 海の生きものたちの生態についての学習（本單元への意欲付け）
10	「海とさかな」の絵画創作	様々な手法を使って、海を表現 →作品展に応募、「学校賞」受賞
10	見よう！聞こう！学ぼう！校外学習	男鹿水族館G A O見学（バックヤードも） 海底透視船の船長さんのお話 校外学習のまとめ
5	公立美大付の生徒さんたかはしゆりあさんが漂流物で制作した「ウミガメ」から考えよう。	マイクロプラスチックに関する本の読み聞かせ 「ウミガメ」をお借りして、展示・観察 「うみがめマリンのだいぼうけん」（第四管区海上保安本部）視聴
2	「ハタハタにくわしくなろう」受講 「魚をおいしく食べよう」レポートの作成	あきた県庁出前講座 冬休みの課題
6	「秋田の海たんけんたい」報告本の作成	真っ白な絵本に、これまでの学習をまとめる作業を通して、本単元を振り返る

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 3 4 時間中の 14~19 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

海の生きものを間近に観察したり、海に出掛けたりし、自分の目で見て、耳で聞いて、進んで学ぶという体験を学年全員で共有する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 バスの中で、</p> <p style="text-align: center;">【見て、聞いて、学ぼう！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくするなあ。 ・あっちが男がだな。 ・日本海が見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動中に見える景色に注目したり、見学先への期待を高めたりすることができるように、バスの中での時間を有効に活用する。
<p>2 男鹿水族館G A Oで、</p> <p style="text-align: center;">【見て、聞いて、学ぼう！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループできょう力しようね。 ・シロクマ大きいなあ。 ・お気に入りの生きものをさがそう。 ・うらがわ見学、楽しみだなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと観察することができるように、少人数の活動グループを編制する。 ・事前に描いた「お気に入りの生きもの」と似ている生きものを探したり、教師自作のビンゴに挑戦したりするなど、焦点化した観察ができるような工夫をする。
<p>3 海底透視船乗船の船長さんと一緒に、</p> <p style="text-align: center;">【見て、聞いて、学ぼう！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふねにのせてくれてありがとうございます。 ・あ、カニがいる。 ・あんなに大きなタイヤもながれてきたんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全員で実際に海を体験する貴重な機会なので、十分に楽しむことができるように、安全に留意する。
<p>4 バスの中で、</p> <p style="text-align: center;">【見て、聞いて、学ぼう！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビンゴの答え合わせ、楽しみだね。 ・たくさんメモしたね。 ・うちの人に教えようね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見て、聞いて、学んできたことを共有したり、振り返ったりすることができるように、バスの中での時間を有効に活用する。

3. 今回の活動の自己評価

海洋教育政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」の海洋教育の4つのコンセプトのうち、「海に親しむ」ことを1番のねらいとした。低学年で（海を）「親しむ」ことが「知る」「守る」「利用する」につながると確信して学習を進めた。コロナ禍で、計画通りに進めることはできなかったが、指導する教師も「海に親しむ」ことに興味をもち、そのおもしろさを児童と共に味わうことができる単元となった。

4. 今後の課題

今年度の活動がとても有意義なものとなったので、今後も学年や学校の実情に合わせて活動を続けていきたい。（「退職後にも、学校の枠にとらわれずに同様の活動をしたい！」と考えるようになった。）

また、来年度の助成の審査通過の連絡をいただいた際の 審査通過にあたっての条件・要望・コメントに、「同じ学年が持ち上がりで学習を行うようですが、他の学年への展開もご検討ください。」とあった。今年度は、他学年への展開を全く意識していなかったもので、正式に採択校となったら水産業を学習する5年生との連携を模索してみたいと思う。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

（とくになし）